

《追悼文》

秦 温信先生を悼む

作田 学

NPO 法人 日本禁煙学会 理事長

日本禁煙学会理事の秦 温信先生は、3月25日に間質性肺炎のため、お亡くなりになりました。

4月13日午後2時から秦 温信 NPO 法人 日本禁煙学会理事のご葬儀が北海道札幌市厚別区のシェラトンホテル札幌で執り行われましたことをご報告いたします。

先生は昭和16年に留萌市に生まれ、昭和41年に弘前大学医学部をご卒業。昭和47年北海道大学大学院(外科学)を修了され、フランスのSt Denis病院へフランス政府給費にて留学され、その後北海道大学第1外科助教授をへて釧路労災病院副院長、札幌社会保険総合病院副院長から、2004年に院長になられ、第12回日本医療マネジメント学会大会長をお務めになりました。

日本禁煙学会の創設時からの理事として学会会長などの要職にあられたことは皆様ご存じの通りです。この2009年9月12～13日にシェラトンホテル札幌で行われました第4回日本禁煙学会学術総会のテーマは、「タバコの煙のないおいしい空気を－受動喫煙ゼロを目指して－」というものでありました。熱気のもった学術総会、ビール園でのジンギスカン料理などを今でもまざまざと思い起こします。

ご著書には、『北辰の如く－関場不二彦伝』(北海道出版企画センター)など多数があります。関場不二彦という人は今日知る人も少なくなりましたが、札幌社会保険総合病院の前身となった関場医院、北辰病院、北海道健康保険北辰病院を創設した人で、札幌市医師会、北海道医師会の初代会長をなさった人であり、名著『西医学東漸史話』の著者でも知られております。

この著書の中に、秦先生が「仁の精神とは何か」についてお触れになったところがありますので、引用したいと思います。



“「仁」の精神とは何か。それは他人について理解する能力、共感能力である。つまり、「仁」とは、他人の痛みを我がこととして受け止め、痛み、傷つき、苦しんでいる人がいれば、じっとしてられない精神である。他人に内在し、自他が合一する精神といってもよい。したがって、儒学では、「仁」者であることが、国家を統治する君子の資格とされる。”(p.264)

札幌社会保険総合病院の院是は、「当院は人間愛と人権尊重を基本とした全人的医療をめざします」というものであり、これはまさに先生のお心を体現するものでありました。

先生は、いつもニコニコと、温厚なご性格ゆえ、

日本禁煙学会北海道支部長として、日本禁煙医師連盟北海道支部などとの橋渡しを行って下さいました。北海道の禁煙推進勢力の中心人物と言っても間違いはなかったでしょう。

佐々木文章現院長から、秦先生のご病状などをおたずねするにつけ、昔お吸いになっていたタバコが

原因であったかと痛感いたしました。

この時期に秦 温信先生という、かけがえのない方を失ったことは惜しんでも惜しみ足りません。

皆様と一緒に、お悔やみをいたしたく存じます。

合掌